



わたしの**3.11**
東日本大震災

【その時】

私は東京、妻・息子は宮城県沿岸部
辿りつけないかもしれないが
「行かなきゃならない！」
43歳オヤジ頑張る！
【わたしの3.11東日本大震災】

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。
下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

【その時がきた！】

2011年（平成23年）3月11日（金）午後 2：46
私は仕事で埼玉県にいた。自宅アパートは浦安。

めまいかな？

いや地面が揺れて小石が崩れてきている。

地震だ！

特殊建設機械のオペレーターの私は操作リモコンの手をとめ、
25トンクレーンが大きく揺れるのを見た。
大きく左右に揺さぶられ立ってられない。

長い長い地震。

クレーンのオペレーターがラジオを聞き、
「震源は宮城、栗原！震度7！」と。

はあ？

かなりの大地震だったので
震源は関東だろうと思っていた私は驚いた。

私は単身赴任中。

妻と小学校卒業式を控えた息子が宮城県亶理郡にいる！

もちろん携帯電話は通じない。

メールは通じた！「大丈夫か？！」

「大丈夫！」と返事。

妻は内陸の大河原町で工作中、

息子は学校のはず。

安心もつかの間、クレーンのオペレーターが叫んだ！

「太平洋沿岸に大津波警報だってよ！」

大津波？

津波注意報ならよく耳にする。

警報！？

それも大津波警報！？

なに？10メートル！！

宮城県県南部、亶理はまさに沿岸部。

動揺した！

余震の続く中、皆、仕事を中止して帰路につく。
車載テレビの映像を見ながら
唯一の通信手段、メールを打ち続ける。

長い闘いが始まった！

【仙台空港に津波が押し寄せている！】

浦安のアパートへと急ぐ。
しかし首都高は閉鎖、停電により信号もつかない。

一般道をひた走るしかなかった。
時間はすでに3時20分。

テレビからは信じられない報道が・・・

「仙台空港の滑走路に濁流が！」
「駐車場の車が木の葉のように流されている！」

仙台空港はウチから車で15分程度で行ける。
息子が小さいころは、よく飛行機を見に行った。

確かに海には近い空港だ。

でも空港に津波が押し寄せるなど考えたこともない。

その報道を聞き、実際の映像が映し出されると
CGか？と疑いたくなるほどの驚きと

我が家はどうなる？

妻と息子は無事か？

必死にこの現実を伝えようとメールする。
きっと向こうも停電で、テレビも映らない。
ラジオなんか普段もっているはずもない。

「仙台空港水没！」

「危ない！大津波警報だ大津波だ！」

「家に戻るな！小学校へ行け！2階以上へ！」

ありったけのビックリマークを付け
冗談じゃないことをアピールする。

こっちの携帯の充電も心もとないが
妻の携帯もそうだろう。

「わかった！」の返事。

とにかく逃げてくれ！
小学校の2階以上なら
距離的にもまず大丈夫だろう。

さあ、まずは
浦安まで戻らなくては……

【次々と津波に襲われる東北太平洋沿岸部】

都内は鉄道が全線ストップのため
至る所で「帰宅難民」の集団が。
これだけの人ごみを路上で見るのも初めてだ。

もちろんどの道も大渋滞。
いったい何時間かかればアパートに戻れるのだろう。

3人で現場まで通っていたので
叔父である社長に運転してもらい、
私はテレビと携帯しか見ていなかった。

どんどん飛び込んでくる津波、火災情報。
千葉県市原でのガスタンク爆発。
茨城県沖での新たな大地震。

すでに

仙台港や閑上港、東松島
石巻、気仙沼、南三陸町、女川
釜石、宮古、大船渡、陸前高田

警報通り大津波による
甚大な被害が出ている様子。

生まれ育った町、八戸にまで！

仙台市若林に勤めている
高校の同級生にメールしてみた。

返信がきた。

「大丈夫だけど、そとは映画みたいになっているよ」

そとは映画みたいに？

なんだそりゃ・・・

尋常じゃないものが次々に流れてきてるって事か？

車と人がごったがえす都会を

はやる心をなだめながら、

暗くなっていく空を見た・・・

【被災地へ出発前夜 叔父の計らい】

妻から

「亘理中学校に避難した」という
最後のメールから早や数時間。

充電が切れたのだろう、こちらからの
メールへの返信は無かった。

やっとアパートに着いた。

時間は夜9時。

車中で社長が

「明日以降の仕事のことはいいから
辿り着けないかもしれないが、お前は帰れ」と

言ってくれた。

助かる。そうしたいと思っていた。

なんとドアを開けたら中に入れない！
下駄箱、食器棚、電子レンジが倒れ
食器が割れて、靴を脱いで上がれない。

それを見た叔父は
「お前は片付けていろ！必要なものは俺が用意する！」
と言って車で買出しに出かけた。

こっちは停電していない。
水は出が悪かったが。

テレビでニュースを見ながら片付けをした。
叔父が帰ってきて
「今日はとにかく寝ろ。明日出発だ」

勢いの最悪になったシャワーを浴び、床に付いたが予想通り眠れない。
テレビ画面から目が離せない。

妻に

「明日、そっちに向かうから」

というメールを送信し、

浅い眠りについた。

【出発したのはいいけれど・・・前途多難の予感】

その日から 一夜あけた。
ほとんど眠れないまま朝を迎えた。

車には
布団一式、毛布2枚、スキーウェア（防寒）
カセットコンロ2台
乾電池いろいろ、米15キロ、鍋、
カップラーメン大量、レトルト大量、
水タンク、などなど・・・

考えられるものは
叔父が用意してくれた。

さらに15万円を手渡してくれた。
ありがたい!!
まだ、あれも持ってけ、これも持ってけという、

優しい叔父の言葉を振り切り、
8時に出発。

たどり着けないかもしれない。

でも行かなきゃならない!

とにかく都内を抜けること。
首都高が通行止めだからどの道も混んでいる。

ちょっとコンビニに寄って朝飯でもと思ったが、
すでにいつものコンビニじゃなくなっていた。

食べられるものなど何もない。
弁当、パンはおろかお菓子、
乾き物にいたるまでスッカスカだ。

ライフラインは首都圏でもダウンしている、
当たり前か。
とは言うものの、腹減った～

これから先が
不安になってきた。

【「幸楽苑」こんな状況下、お腹を満たしてくれた店】

朝8時に部屋を出たのに・・・
お昼前、叔父から「どこまで行った？」の電話に「まだ幸手・・・」

埼玉県幸手市・・・
いつもなら1時間30分で行ける。

首都高ストップは痛い。

やっと国道4号線に出た。
この通り沿いにホームセンターが必ずあるはずだ。

電池式の電灯やラジオ、
ペットボトルの水、
ポリタンク、
食料。

手に入れなきゃいけないものがたくさんある。

腹が減った・・・
どこもやってない。
コンビニには何も無い。

お？

もしかして店開けてる？
昭和29年創業の味・中華そば「幸楽苑」！

やった！助かった！

さすがにメニューは限定だが、
満腹だ！ありがとう！

しばらく走っているが

ホームセンターが見つからない・・・

埼玉県を抜けた・・・

【スーパービバホーム小山店！スタッフに感謝感激！】

こんな状況下で店を開けてる方が
どうかしているのかもしれない。
国道4号線をひた走りながら思った。

棚から商品は落ちているだろうし
ましてや広範囲で大停電をおこしている。
普通、閉めるよな店・・・

と！

左手に大きな看板発見！
「スーパービバホーム 小山店」

やっている雰囲気はないものの、
とりあえず寄ってみよう。

ん？

人が並んでいる。
なんかやってる！

店員さんが拡声器でしゃべってる。
「本日は店頭で緊急用品のみの販売です」
「入場制限にご理解ください」

お===！

その緊急用品が欲しいのだ！
並ぶこと20分。

おっきな店舗の入り口部分だけを利用し、
売ってる売ってる緊急用品！
予想通り停電で、店の中は危なくて入れないらしい。
でも私の欲しかったものが
そこにはたくさんあった！

ペットボトル2リットル ケース売り！
水タンク！乾電池！ラジオ！電池式ランプ！
ありったけ買った！1万5千円分！

レシートも領収書も出せませんとのこと。
関係ないや非常事態だもの。

のちに手に入らなくなる、ガソリン携行缶だけは
買い損ねた。後悔した。

それでも
昨日から徹夜で準備をし、
店を開けてくれた

スーパービバホーム小山店のスタッフの皆さん

本当にありがとうございました！！

【セブンイレブンのお二人に感謝！準備OK！】

飲料水は確保した！
水タンクも手に入れた！
あとはタンクに水だ！

さあ！どうしよう・・・

スーパービバホーム小山店を後にした私は
少し走った左側にセブンイレブンを発見。

なにを買うために入ったか忘れた。
タバコだったかな？

とにかく
ダメもとで切り出した。

「いま、家族がいる宮城に向かっています」

「よかったら水を分けてもらえませんか？」

おばちゃんスタッフの2人は
顔を見合わせ、数秒。

「あ、あ、どうぞ！」

やった！断水していないらしい。

親切にもカウンター内の水道から
持ち込んだタンクに水をくんでくれている。

もう一人は他の客のレジを打っていた。

けっこう時間がかかる作業だったが
イヤな顔もせず黙々と水くみをしてくれた。

「ずっと国道行くんですか？」と聞くので

「はい！着けるかどうか分かりませんが」と笑顔で答えた。

ありがとうございます！

セブンイレブンのスタッフのお二人。

おかげで

準備は全て整いました！！

さあ！気合入れていこー！！

【ガソリン地獄！！年長者の言うことは聞くべきだなあ～】

この車はホンダのフィット。
カタログ10モードでは
リッター24キロ走ることになっている。
以前、宮城までリッター21キロを記録している。

タンクは42リットル。
だいたい半分くらいで宮城には着く計算。

ガソリンスタンドはどこも行列が出来ていた。
それを横目に走り抜ける私。

出発前、叔父が
「ガソリンが入れられなくなるぞ」
「携行缶持ってけ」と言っていた。

急いでいた私はその言葉を
右から左へ受け流し、浦安を後にしたのだ。

年長者の言うことは聞くべきだ。

素直に反省しよう。

度重なる渋滞で

予想より早くガソリンを消費している。

メーターは半分近くまで下がってきている。

そろそろ……

空は暗くなり始めている。

スタンドがあった！

行列にはなっていない、少し待てばOKだ。

並んだ。

前の車にスタッフが声をかけている。

ん？

何て行ってるんだらう。

私の番だ。

「ハイオク1000円分しか入れられないんです」

はあ～～？

レギュラーは売り切れハイオクしか残ってない？

しかも1000円分??

数リッターしか入れられないじゃん！

あ===甘かった=====！！

ガソリン地獄はここから始まった……

時すでに夕方6時を廻っていた……

【妻の親友から心配メールと徐々に悪くなる道路事情】

栃木県を抜け、福島県へ
何時間か前から
妻の親友からメールが度々。

「●●子と●●郎はどうしてる!？」

「こうでこうで、今向かってる」

「いまどころらへん？」

「まだ●●市」

こんなメールのやりとりをしていた。

津軽出身の妻の2人いる大親友のひとり。
先日、旦那さんになる人と宮城まで来てくれた。

「亙理中に非難しているから大丈夫」

「あそこはかなり高台だから」

「それにしても至る所で渋滞なんだ」

夜8時。

もう12時間も運転している。

あたりは停電で真っ暗闇だ。
渋滞の車のブレーキランプの光だけが
道を照らしている。

さすがに疲れたな・・・
でも休憩しようとは思わなかった。

この渋滞はみな同じ思いの人達だ。
単身赴任で都会に住んでいる
東北太平洋沿岸地域に家族を残している
「父親」が多いに違いない。

福島に入った。
栃木とは明らかに違う。
国道4号線にもかかわらず
道が悪い。
でこぼこしている。うねっている。

そして
「通行止め、迂回せよ」

ついにきたか、通行止め。
でも迂回できるんだから先には進める。

ナビが付いててよかった！

こんな真っ暗な道、ナビがなかったら絶対迷う。
だいたい私はプチ方向音痴だ（笑）

こちらの車線と対向車線に段差がある。
地震の影響が段々と顔をだしてくる。

ここからが本番だ！

【決断！国道4号を諦め北東へ！ヤンキー風の彼に感謝！】

ついに動かなくなってきた。
福島に入った途端、
国道4号線は沈黙・・・

これはマズい。
このままだと何時間かかるか・・・

時計はすでに夜9時を廻っていた。

はやる気持ちを抑えられない・・・
だが
国道に比べ、県道や町道は作りがゆるい。
つまり地震の影響を強く受けているはずだ。

へたに抜け道を選択すれば

2次災害に遭う可能性がある。

「いくぞ！」

自分の感覚と集中力を信じ
いざ宮城へ！

目指す宮城県亘理町は
ここから北東の方角。
いつかは東へ、沿岸へ向かわなくては。

ナビを見ながら、それなりの県道らしき道を北東へ。
さすがに空いている。
だが慎重に・・・

一寸先は闇ってことが大いにある。
ここはもう被災地なのだ。

途中、通行止めの標識・・・
ここを通れなければ、かなりの回り道。

しかたない。
Uターンして後続の車に
「行けそうにないですよ」と話す。

「いや、大丈夫ですよ。昨日も通りましたから」
ちょっと見ヤンキー風の彼の言葉を信じ、

彼の車の後をつける。

いやいや、大丈夫ではないよこの道は・・・
反対車線を走ることたびたび。
本来の車線は通れない状況だ。陥没してる。

彼に感謝しながら
私は北東へと向かった。

【余震による崖崩れに脅えながらついに目的地へ！】

真っ暗な道路。
寸断されているかもしれない恐怖。

知らない道。
方向は間違っていないのだが、

いつの間にか峠道を走っていた。
脇には切り立った斜面と崖。

もし
強い余震でもあって崖崩れがおこったら、
車もろとも土砂と共に崖下へ。

間違いなく「さようなら」

う～～～怖い
早く終わってくれこの峠道・・・

しかし
長いこと長いこと・・・
いつになったら普通の道になるんだろう。
ここで死ぬわけにはいかないのだ。

ついに宮城県に突入した！
時間は11時を廻っている。
亙理は県南だ。もう少しだ。

めざせ亙理中学校。
息子が今春から通う学校であり
いまこのときは避難所である。

知っている道に入った。
真っ暗だが判る。
慣れ親しんだ道。

この丘の上に亙理中学校がある。

ついた！

時間は夜中の12時。

所要時間 実に16時間！

でも不思議と疲れは感じなかった。

ついに辿り着いたぞ！！

まってる2人とも！！

【亙理に到着！自宅へ向かう】

16時間かかった・・・

でも到着した。亙理だ。

真っ暗だ。

消防署にはたくさんの消防車。尋常じゃない数だ。

ここだけは明るい。発電機が動いている。

隊員さんが束の間の休息をとっている。

愛知県からの応援のようだ。

先に自宅へ向かってみよう。

暗闇の中、車を走らせる。

生協が見える、もうすぐ。

お？

水だ!!

水が見える!!

ここまで来ていたとは！

見たところ、浅い。

ここは平坦な道、すぐその自宅まで行けそうだが...

さてよ、

地震で道路が陥没している可能性もある。

水で見えないが可能性はある。

危険だ!!

こんなところで何かあったらシャレにならない。

まだ妻と息子の顔さえ見ていないのだ。

すぐそこにあるはずの自宅は諦めて、

避難所である亘理中学校へ向かった。

逢えるかな・・・

避難所である亘理中体育館に入った

道路も暗くてよく見えない。
ここだ。車を止め体育館へ。

発電機の声だけが響く。
大勢いる。かなりの数だ。
多くの人達が寝ている。
当然か、真夜中だ。

発電機は入り口に程近い所にある
小さな照明と一台のブルーヒーターに使われていた。

ヒーターの周りを取り囲むように
20人ほどがパイプイスに腰掛けていた。
ラジオを聞いている。

静かにゆっくりと体育館の中を歩いてみる。
毛布にくるまって、お母さんらしき人と
子供が身を寄せあって横になっている。

みな、マスクをしているのと、
暗いので、見分けがつかない。
これでは2人を探せない。

一度外へ出た。

タバコを一服していると、入り口扉に

何か貼ってあるのに気付いた。

避難者名簿だ。

上からじっくり名前を探す。
この避難所に必ずいるはずだ。

あった!!

ん？私の名前まである...
あったにはあったが、名前に横線が引かれてある。

ん？

『逢隈一親戚宅』

よくみると、他にもある。線が引かれて、
行き先が書いてある。
ということは、
ここに一時避難して他に移ったということか。

逢隈、親戚宅...

だいたい私達は青森県人、宮城に親戚などいない。

いったい

どこへいった？

【近所の奥さん発見&ここで寝るのは大変だ】

2人が身を寄せているはずの
避難所である互理中学校 体育館。

なんとか到着したものの、
16時間かかったおかげで
真夜中12時。

暗くて誰が誰だか分からない・・・
張り出されている名簿には横線&「逢隈 親戚宅」

あ～～～
どこにいるのだ妻と息子は～～！

と悩んでもしかたないので、
体育館の隅で寝ることに。

眠れない・・・

寒いし硬いし話し声はするし。
おまけに腹が減ってる・・・

いつも静かな部屋で寝ているから
慣れない・・・

車に戻って寝るとしよう。

とそこへ見慣れた顔が・・・

元、近所の奥さんだ！

「大丈夫でしたか？ウチの家族知りませんか？」

「あら、いたはずだけど」と言って

案内をうける。

しかしそこにはいなかった。

やっぱりいないのか・・・

とりあえず、明るくなるのを待とう。

ガソリンが心配だが、もの凄く寒いのと
体育館では寝られそうにないので
車で一夜を明かしたのだった。

【2人の行方のヒント見つかる 携帯「圏外指定」】

夜が明けた・・・

2～3時間は眠れたか？疲れは取れないまま。

手がかりを探すため体育館内へ。

あ！息子のクラスの女の子だ！

「●●ちゃん！●●郎のお父さんなんだけど！」

怪訝そうな顔をしながらも
「お母さ～～ん」と言って
母親の所へ連れて行ってくれる。

「あ、2人なら・・・職場の先生が迎えにきて、一緒に行きましたよ」

「え？そうなの？」

妻は学校の事務をしている。
そこの先生が自宅へ迎え入れたということか？
それにしても相変わらずの「人徳者」だ。

とはいえ・・・
「逢隈 親戚宅」
だけじゃ、さっぱり解らない・・・

さらに
亘理地区だけなのか携帯が「圏外」になっている。
充電はあっても「圏外指定」されてしまっは
連絡の取りようがない。

先生宅へ保護されたのなら
携帯の充電ができているかもしれない。
電波の通じるところまで行ってみよう！

あわよくばガソリンも入れたい。
私は仙台方面へ車を走らせた。

【最終手段】

国道6号線から4号線へ・・・仙台へ向かう。
どっこのスタンドもやっていない。
完全に閉まっている。

これは大変だ・・・

店も閉まっている。
ガラスが割れている。
停電、断水、破損、ガス不通
それはそうだ。出来るわけがない。

やっと携帯の電波が通った。ここは長町。
閉まっている店の駐車場で車を止め、
妻にメールを送る。

しばし待つ間に腹ごしらえだ。
積んできたカセットコンロに鍋をセット。
お湯を沸かしてカップラーメンをすする。

連絡は無い。

逢隈は広い。でも亙理町である。
「圏外指定」なのだろう。

「逢隈」だけで探すのは不可能だ。

よし、勤め先の中学校に電話してみよう。
104で聞き、電話するも不通・・・

だめだ！

こうなったら直接いくしかない。
長町から柴田まで、またガソリンを
使わなくてはならない。

イザ、勤め先の中学校へ！
もうそれしか方法はない。

【最後の希望 中学校へ】

40分くらいは走ったか・・・
中学校へ到着。
閑散としている。

横を通りすぎていくジャージ姿の女子。

「職員室はどこですか？」聞いてみた。

「はい！2階です！」元気な返答。

2階へ上がってみるとおじさんが・・・

「あのう・・・事務でお世話になっている
●● ●●子の夫なんですが・・・」

「あ～～●●さん！ご無事でしたか？」
「こちらへどうぞどうぞ！」

校長室みたいな所へ連れられる。
「校長！●●さんの旦那さん！」

あ、この人が校長？
ということは、こちらのおじさんは教頭？

「実は避難所の名簿でこう書かれていて・・・
勤め先の先生が迎えにきて一緒に出て行ったという・・・」

「逢隈 親戚宅」が残されたヒント。

「逢隈ねえ～～～～～親戚・・・」

校長と教頭は顔を見合わせる。

「いや、こっちに親戚はいないんです。

こちらの先生のお宅に行っていると思います。」

「あ！いる！逢隈！」

「●○先生だ！」

「逢隈から通っているのは一人だけだ」

やっと有力な手がかりが見つかった！
こう行って、ここに入って、と説明を受けたが
高台であり民家の少ないところらしい。

住所と電話番号を聞き、学校を出る。
車には頼りになる「ナビ」が付いている。
住所を入力したらピンポイント！

さあ！

これで違ってたら

もうお手上げだ・・・

車は●○先生宅へ向かった。

ナビに従って山道へ。
峠のような急カーブがある。

右に見えるのは牛舎か・・・
おっとここだ！ここを左へ。

砂利道をゆっくり走る。
家が見えてきた。立派な日本家屋。

車が3台見える。
一番奥、
見慣れた軽自動車がある！

いた！！

間違いない！！

最後のメールから48時間
ついに妻と息子が見つかった！！

隣に車を止め、降り立つ。

すると

勝手口から女性の姿。
誰だろう？って顔だ。

「●●です！お世話になって！」

「あ~~~~！●●さん？」

彼女はおもむろに家の中を振り返り

「●●さ~~~~ん！お父さん来たよ~~~~！」
すぐさまコチラを向き、
「そっちの玄関からどうぞ~~~~！」

立派な玄関を開くと
そこには
「え？」という顔の妻。

二人とも一瞬言葉が出ない。

ほっとしたのか
私は妻に開口一番こう言った。

「なんで詳しく行き先書かないんだ！！」

妻は

「だって来ると思ってないし・・・」

「今からそっちへ向かう」と送った
メールは見てないらしい。圏外指定だ。

そのとき

私の到着を知った息子が小さな声で言った。

「救世主きた」

●○さんのご家族は大変親切な人達で
とてもよくしてくれた。感謝しきれない。

私が持ち込んだ物資はとても喜ばれた。
中でも乾電池式ランタン。

ろうそくで生活していた●○家。一気に明るくなった。
ラジオも重宝がられた。
情報を入手する手段が無かったらしい。

車のシガーライター電源からとれる
携帯充電器などは
車で出かけるときには代わる代わる
持っていった。

次の日、

私たち3人は家を見に行くことに。
私が互理に到着した日には
水がきていてそれ以上進めなかった。

それからは1日半経っている。
車で向かってみた。

やはり生協から先が怪しい。
水はだいぶ引いていたが
車で進むことを躊躇した。

生協の駐車場に車を止め
歩いていくことに。

あらかじめ長靴は用意してある。
歩道も車道も関係ない。
歩けるところを歩くのみ。

船がこんなところまで流れついている。
樹木や建築材料などもあちこちに。

不安が募る・・・

さあ、家はどうなっているのか？

【家の状況】

みえた！！

ウチはあった！

3人で顔を見合わせる。
とりあえずよかった！

しかし廻りには残骸や瓦礫が・・・
荒浜方面から流れてきたのだろう。

外壁に跡が付いている。
津波がここまで上がったという跡。

道路から見ると腰の高さまである。

そとに置いてあったストックケース。
もともと船のような形状だ。
流されてどこにもない。

一回またがっただけの新品の自転車。
物干しの支柱にひっかかって無事だ。
妻が奇跡だと喜んだ。

恐る恐る中に入る。

臭い！！

油の匂い。泥の匂い。

鼻にツンとくる強烈な悪臭。

これはちょっとひどい。
普通に土足で上がる。
それくらい一目でわかる泥だらけ・・・

家の中は床上20センチくらいか・・・

「住めるな」

私はそう思った。
今日は確認しに来ただけだから
準備はしてこなかった。

大量の水が必要だ。

すべての家電のコンセントを抜き
ブレーカーを落として家を出る。

どれだけのものが使えるのか
皆目検討がつかない。

私は海岸方面、荒浜に歩いて向かった。

状況が知りたかった。

荒浜方面へ歩く。
どんどんひどくなっていく。

セブンイレブンがある。
最近、敷地を拡大して建て直したばかり。
かなり売れる店として有名だった。

ずいぶん水があがっていた様子。
店内でも腰の高さくらいか・・・

J Aのセルフスタンド。
ここも営業再開には
かなりの時間が必要だろう・・・

建設業の会社の倉庫。
どうやって片付けるのだろう・・・
そんな状況だ。

軽トラックがひっくりかえって
田んぼに突き刺さっている。

どっかのコンテナが流れついている。
被災地だということを実感させられる。

仙台東部道路だ。

あ・・・

これが・・・

【明暗を分けてしまったもの】

仙台東部道路が目の前に。

あ！！

これだ！！

これが明暗を分けてしまった！！

仙台東部道路は宮城県の湾岸沿いを通る高速道路。

石巻あたりから亘理まで完成している。

将来は「いわき」とつながり、

東京から延びる常磐道と1本になる。

街中では高架橋になるが

この辺は田舎である。高架橋にする理由がない。

だから「土盛り」での道路だ。

一般道が交差するところだけ

ボックスカルバートなどで「くぐる」ことになる。

つまり開口部はそこだけで

あとは閉鎖状態になる。

それこそ「防潮堤」がわりだ。

予想通り

仙台東部道路をくぐると

世界は一変していた。

流されてきた車や家の残骸の数、

上がった水の高さが

南北に通る仙台東部道路の東と西では

まったく違う。

押し寄せてきた津波が

防潮堤がわりとなった仙台東部道路に

ぶつかり、戻っていったのだ。

ファミリーマートがある。

なんとか原型を留めてはいるが壊滅だ。

ここで3メートル以上は波が来たわけだ。

まだ海までは結構あるのだが・・・

ついにその先へ進めない。

愛知県と書かれている消防車が

何台もいる。自衛隊の車も見える。

救助や瓦礫の撤去を進めているのだろう。

道路を塞いでいるものを取り除きながら

海岸方面へ進んでいるのだ。

この先は一体どうなっているのか・・・

私は家に引き返した。

【セイムスが助けてくれた！】

帰り足、
ドラッグストア「セイムス」に人だかり。
Uターンして駐車場に入る。

店は入れないのだろう
店の前でワゴンやダンボールに入れたまま
在庫品の販売をしている。

見ると結構いいものが揃っている。
この日を境に
パツパツと手に入らなくなるものばかりだった。

「これは買っておかないと！」

妻と二人で買えるだけ買った。
これは助かるラッキーだった。

被災地では本当に物が買えない。

買えないと食べられない。

避難所には真っ先に救援物資が届くようになるのだが、
避難所以外で生活していると
物資は自分で調達しなくてはならない。

最初の1週間は
まともな食事など出来なかった。
4キロほど痩せた。

とはいえ、
これで●○家に手土産ができた。

【家の復旧作業開始】

お風呂に溜めてあった水と
○●家から分けてもらった水で
家の復旧作業を始めた。

とりあえず居間から始めよう。
花粉症もひどいが、この油泥の匂いもひどい。
クシャミ連発しながら作業。
妻と息子に指示を出す。

私の仕事は基礎工事業。

土木の仕事というのは段取り8分である。

そして常に状況が変わっていくため
次々と先を読まなければならない。
今の作業をしながら次の作業の準備を

同時に進めなければならない。

何をどこに置いておけば後から動かさなくていいか。

作業導線の確保は危険リスクの排除だ。

笑い話だが、
屋根の塗装をされていて、下から上へ
塗って行ってしまったため
最後に降りてこられなくなった。

よくある話だが、仕事でそれはNGだ。

そんな仕事をしているせいか
作業する場所をしばらく眺めていると
どこから手をつければいいのか分かるようになる。

妻と息子の力と経験を考慮して
適材適所での作業指示がスムーズに出せた。

途方もない作業かと思われたが
比較的短い日数でだいぶ住める状態に。

除菌アルコールスプレーとファブリーズの

ダブルで匂いも落ち着いてきた。

そして

電気が復旧した！

【待望の電気復旧～家電の損害状況は？】

それは●○家での夜

「ポーン」

という音と共に家中の明かりがついた！

3世代7人家族の下へ7人という避難者。

合計14人が一斉に歓喜の声をあげた。

あるものは抱き合い、

あるものはハイタッチ、

皆、今にも泣きそうだ。

泣いてる人もいる。

あらためて電気のありがたさを知る。

みなストレスが溜まっていたのだろう。

言い争いが多くなっていた矢先の電気復旧に

笑顔と笑い声も復旧。

●○家の孫とうちの息子も

仲良し復活だ！

それから遅れること2日。

我が家にも電気が帰ってきた。

だいぶ住めるようになった。

3人で一生懸命頑張った。

電気家電製品の被害状況を確認。

痛かったのが冷蔵庫と洗濯機。

床上20センチだったわけだが
その20センチという高さのところに
大事な部分があったのだ。

見かけは無事だが動かなくてはダメだ。

その他

ファンヒーター

パソコン

アイロン

ビデオカメラ

デジタルカメラ

FAX

体重計

ホットプレート

思い出せるものだけで

ざっとこれだけの家電がやられた。

無いと困るものが多い。

とりあえず

冷蔵庫、洗濯機、ファンヒーターは

買わないと。痛い・・・

近くの家電量販店に向かった。

【ケーヨーD2（ドイツー）大河原店に感謝！】

とりあえず近所の家電量販店へ
洗濯機と冷蔵庫を探しに・・・

当たり前だが
私たちと同じ状況の人達もたくさんいる。
お手ごろな品はすでに「売約済み」・・・

さらに倉庫は津波でやられて
入荷は見当もつかないらしい。

まずい！洗濯機と冷蔵庫は
生活必需品である。無いと困る。

柴田・大河原方面だったら
こっちほど被害がないだろうと思い、
車を走らせる。

ヤマダ電機・ダイシン・ジャスコ・ダイユー８・・・
いろいろ廻ったが・・・

ない・・・

諦めかけていたその時、妻が言った。

「そのケーヨーD2は？」

ホームセンターはダイシンとダイユー8（エイト）
を見てきた。無かった。

ケーヨーD2もホームセンター、

無いでしょ・・・

妻は譲らなかった。「行ってみよう」

なんと！

韓国製ではあるものの、立派なサイズの
冷蔵庫・洗濯機があるではないか！

しかも国産の値段の半値だ！即決した。

問題発生！

貸し出し専用の軽自動車がガソリン不足で
貸し出ししていないという！

困った・・・

レンタカーを借りないといけないか・・・
しばらくその場で売り場担当者と
いい案がないかと話していると、

なんと店長が最寄の営業店舗に電話して
ガソリンを持ってきてもらうという！

なんとという機転。

なんとという心遣い！

ありがとう！
ケーヨーD2（ドイツー）大河原店！
ありがとう店長！！

妻と二人で

壊れたものを外に出し、新品を設置した。

【本物の被災地の状況を目の当たりに】

宮城に着いてから
度重なる余震から開放されていない。
それも結構な余震の強さだ。

が、息子（12歳）がこんなことを言う。

「もっと大きな地震じゃないとつまらない」

不謹慎ではある。
ただ、彼なりの強がりなのだ。

そういえば息子は学校から避難所へ行き
●家に移っている。

家からすぐその荒浜地区。
本当の被災地の状況を見ていない。

見せるべきか否か。
迷った。

でも見せることにした！

車は田んぼに酷い姿で散乱し
大型トラックまでもが住宅に乗り上げ
たくさんあったはずの家々は
基礎を置き去りにどこかへ消えた。

かろうじて通れる道路の両脇には
高さ3メートルの瓦礫の山、山・・・

港は施設がめちゃくちゃ
漁船が建物の上に・・・
どこかの家の2階部分が誰かの家の上に・・・

防潮堤は
乳歯から永久歯へ生え変わる途中のように
ところどころ欠けている。

息子は・・・

私の話

うなずくことしかできなかった。

後にメールで

「怖くてもう荒浜には行けない」と。

トラウマになってしまったか・・・

でも現実を見せてよかったと思っている。

これが本物の被災地の現状だ。

【 12日遅れの卒業式 】

3月18日が息子の小学校の卒業式の、予定だった。
私はそれにあわせて17日に
宮城 亘理へ帰るつもりだった。

それが・・・

3月11日午後2時46分
未曾有の大地震が東北地方太平洋沿岸を襲った。
地震よりも津波が全てを奪った。

3月12日 朝8時に亘理へ向け出発
16時間かかって到着した。

幸いにも、妻と息子は無事。
家も、床上20センチで済んでいた。
食べ物は無い。水も灯油もガソリンも無い。

そんな日々が続き
家の片付けや掃除に明け暮れた。

気がつくと早3週間が過ぎようとしていた。

卒業式をやむなく中止にする学校が多い中、
わが息子の小学校は行うという。

うれしかった。

3月18日予定から遅れること12日。

3月30日に卒業式と終業式が同時に行われた。

私たち家族の
私も妻も息子も
一生涯、忘れられぬ卒業式。

忘れられぬ春となった。

おわり・・・

最後まで読んで下さってありがとうございました。

【あとかき】 ～東日本大震災で解った日本人の凄さ～

東日本大震災。未曾有の大震災に見舞われた日本。
被災地で3週間、日本人の凄さを知った。

まず、交通。埼玉から浦安へ一般道を通って帰宅する際の光景。
信号が停電により停止しているにも拘らず、ドライバー同士の「ゆずりあい」。
クラクションの音さえ聞こえない。6時間もかかって帰宅したが、
その間、事故を目撃しなかった。交差点では見事に順番通り進入していた。

「次、あなたどうぞ」「次はそちらですね」
聞こえるはずもないが身振り手振りの優しいゆずりあい。

次に、店の人達。ガソリンスタンドの店員は
くる客くる客に深々と頭を下げ説明していた。
コンビニ店員もそう。食品類がとうに無くなっているのに
食品を買い求めにやってくる客に謝っていた。

ホームセンターの人などはお店も自宅も被害大なのに
ポリタンクや乾電池、ランタン、ラジオなどを
店頭で安全な場所を徹夜で確保して提供していた。頭が下がる。

被災地ではどこの店にも大行列ができていた。長時間並ぶのは寒かった。
でも他に開けている店がない。開けてくれるだけでありがたい。
なにせ物資が圧倒的に足りないのだ。

順番待ちや長時間の立ちっぱなしに文句を言うこともなく、黙々と整然と動く。
強いなあ～日本人は・・・
強いものが弱いものをかばう。みんなお腹がペコペコなはずなのに。
弱い子供やお年寄りに、より多く分け与えていた。

これが、どこかの国であったなら・・・
被災者以外に「奪い合い」によって多数の死者が出たろう。
至る所で強盗・傷害・殺人が起こる。

私たちの国、日本。そして日本人は
世界に誇れる、世界も驚嘆するほど素晴らしい人間性を持った民族なのだ。

最後に・・・この震災で亡くなられた全ての方のご冥福を
こころからお祈り申し上げます。



【番外編】

この話の位置関係。

宮城県亶理郡亶理町（わたり町）は宮城県の県南に位置する。

仙台空港からは車で15分ほど。沿岸部の南北に走る緑色のラインが仙台東部有料道路。この高速道路が明暗を分けた。



【拡大図】

自宅の場所と小学校。仙台東部道路から海側は酷い状況だった。



【災害時に必要なもの】

●これは役にたったなというもの●

★ランタン（乾電池式の照明）

停電＝ろうそくのイメージだが、ろうそくは暗い暗い・・・
ランタンならそれなりに明るい。

★ラジオ

停電ではテレビはNG。
情報はラジオしかない。
多くの被災地では大津波警報を知らなかった！

★乾電池式携帯電話用バッテリー

これを持ってるのと持っていないのでは雲泥の差がある。
乾電池とバッテリーは常に用意しておくべき。
連絡がつかないと皆心配する。

★カセットコンロ

お湯を沸かす手段が無いと困る。これで食事も取れるし身体も拭ける。

★コンパクト鍋

なんにでも使える鍋。1個あればとりあえずOK.

★レトルト食品

避難所では最初の数日は「おにぎり」1個という時もある。
保存期間の長いレトルトものは貴重だ。

★水

人間は水さえあれば食べ物が無くても数日間は生きていられる。
それくらい水分は重要なのだ。

★反射式ストーブ

1台は所有しておくべき。普段は使わないだろうが災害時には非常に役に立つ。

★使い捨てカイロ

寒い時期には必需品。避難所は寒い。毛布だけでは冷える。

身体を冷やすことは危険。風邪のもとになるし、臓器の機能低下を招きかねない。

★寝袋

アウトドアなどでよく使用する。たためばコンパクトで持ち運びが楽。なにより暖かい！

★ガソリン携行缶

これは買っておくべきだった！せめて10リットル缶。

後悔先に立たず・・・

★ウェットティッシュ

水が貴重なため、手や身体も拭ける。除菌も出来るのであると重宝。

★ジャージ

着ていて楽。外出も恥ずかしくなく、なにより洗っても乾くのが早い。

~~~~~

避難所では数日は何もない状況を耐えなければならない。

日を追うごとに水や食料、その他物資は届くようになる。

その最初の数日耐えるためのものをリュックに入れて用意しておく。

今回はこんなに大きな災害になるとは誰も思っていなかったため

避難所には「明日帰れるだろう」程度の装備でしか集まってこなかった。

みな大変苦労したと思う・・・

~~~~~